

## みみはらグループ 2026年 新年集会 命と人権、 平和を守る 運動

1月10日、フェニーチェ堺にて、みみはらグループ新年集会を開催しました。職員、友の会の方々など、会場とオンラインあわせて約300人が参加しました。



ご講演された岡真理教授



社会医療法人同仁会・森高志専務理事からは「2026年基調報告」として、老健みみはらの黒字化や署名による30年ぶりの報酬大幅増額を報告。放射線治療導入等の機能強化を進め、「命と平和の碑」設置運動を通じて



健康友の会みみはら・江戸道子会長は、地域住民の立場から、国民の生活を顧みない現在の政治に対する思い、地域医療を守る活動について述べられました。そして、地域医療を守る署名活動への積極的な協力への感謝と、最後に今後ともに歩んでいきたいと思います。ご挨拶をいただきました。

2025年10月10日停戦合意発効以降も400人以上が被害、死が自動的に大量生産されており、ガザの人的危機は人為的に設計されたものである、というショッキングな内容が語られました。問題の根源は、入植者植民地主義という構造

社会医療法人同仁会の田端志郎理事長の開会の挨拶では、緊迫する世界情勢に触れながら、「命と人権、平和を守る運動」への強い決意を述べられました。また、自身の医師としての経験から、経済的理由で治療を受けられない患者の現実に触れ、「無差別・平等の医療と介護」の重要性を語られました。



同仁会・田端志郎理事長

記念講演は早稲田大学文学学術院文化構想学部・岡真理教授から、「ガザのジェノサイドは終わっていないーガザの『ジェノサイド』とは何かー」と題し、お話をいただきました。



同仁会・森高志専務

社会保障と平和を大切にする地域づくりを推進する方針を説明していただきました。

「無関心は加担」という言葉が印象的だった。強烈なインパクトがありました。小さな一歩を進まないといけないと感じました。衝撃的な内容でした。あまりにも知らないことが多く、無言であることは加担することと言われており、無知であることも一緒だと思った。まず正しく知ることが必要だと思った。

### 新年集会記念講演感想

ガザの実情がよく解った。平和とは「構造的暴力」「文化的暴力」が無い事には大いに納得しました。高市内閣の下「戦争だけは絶対にしてはならない」の最も基本的な思いだけでは戦争に巻き込まれる、という危機感を持ちました。ガザの問題は、国際社会が長年に渡って自分たちで解決できない問題をパレスチナ人へ押し付けた結果だということを知ることができた。また、パレスチナの人々を一人の人として見ようというイスラエルの狡猾な政策にも憤りを感じた。今日の国連の機能不全の原因にも繋がると思った。報道規制の中、今起っていることを知り驚愕している。停戦のうらにあるジェノサイドが続いていることを知り、本質の平和について知ることが大切であり、歴史的背景を知り学ぶことで真の平和を考えさせられた講義であった。

入植者植民地主義という言葉で、今まで複雑な宗教戦争くらしいの知識だった中東問題の本質を、やっと理解できた気がします。ハマスは何となく怖い集団だと思っていた認識も変わりました。今後のニュースの見方が変わりそうです。

### お知らせ 4月号から紙面リニューアル

『同仁会報みみはら』は、創刊以来続いたスタイルを見直し、より読みやすい紙面へと生まれ変わります。これからも、みなさまにとって身近でわかりやすい情報をお届けできるよう努めてまいります。新しくなる『同仁会報みみはら』を、どうぞお楽しみに！

最後に、社会福祉法人ひまわり会・岡本裕宏理事長より閉会の挨拶をいただいで、閉会となりました。